

Human

## 新しい出会いへの期待

農業技術コミュニケーター

甲斐 由美



### この仕事に就いた理由

なぜ自分がこの仕事をしているのかを振り返ると、小学生の頃に「キュリー夫人」の伝記で研究者に憧れたことと、中学生の頃に有吉佐和子の「複合汚染」を読み、「安全な食物を口にするには、まず農業を知らなくては!」と思ったことが大きく影響している気がします。その後、農学部で学び、公務員試験を受け、農林水産省に採用され、今に至っていますが、最初は「中国農業試験場」(現在の西日本農業研究センター)で、小麦の栽培研究の担当でした。

### これまでの仕事

平成9年に当時の「九州農業試験場」に異動してから、一貫して「サツマイモ」に関わり、たくさんの品種を育成してきました。サツマイモは、九州以北では基本的に自然開花しないので、交配するにはアサガオに接ぎ木をして人工的に花を咲かせなくてはなりません。そのため、大規模な交配育種による品種改良には専用の温室やスタッフが必要で、この点に国の機関であるという強みが発揮されています。交配だけでなく苗床や圃場の管理も含め、支援業務の皆様の技術に支えられて、ようやく私たちのイメージする新品種を形にすることができています。私に関わった中で最も普及したのは「べにはるか」で、各地で「素晴らしい品種を作っていただいた!」と感謝されるたびに、私だけの手柄では無いんだけどと申し訳なく思いつつ、やはり嬉しくてつい口元が緩んでしまいます。

### これからの抱負

今年の1月から「農業技術コミュニケーター」として、サツマイモの品種だけでなく、農研機構が推薦するいろいろな品種や技術を、それを必要としている方々にご紹介し、問題点や要望などがあれば開発者につなぐという、双方の「コミュニケーション」の仲立ち役をめざしています。人の顔や名前を覚えるのが不得意なのは不安材料ですが、新しい出会いへの期待もあり、35年前の入省当時のようにドキドキワクワクしているところです。

### 甲斐さんの素顔

都城研究拠点で20年近くご一緒させて頂いていますが、いつも笑顔で穏やかながら、パワフルにサツマイモ育種の仕事をこなしておられました。私にとっては、いろいろと相談しやすく、的確なアドバイスを頂けるので、頼りになるお姉様といった存在です。合唱やテニスを趣味にお持ちで、時折素敵な歌声を披露していただけます。農業技術コミュニケーターという新たな立ち位置での一層のご活躍を期待しています。



◀畑作物生理  
・遺伝グループ  
グループ長  
田中 勝